

1. はじめに

十方舎が1985年に入居が開始されて35年目に入ろうとしている。この間、世代交代もあり、十方舎の将来を考える会も開催され、本気で考えていく時期にさしかかっている。様々な家庭がある中で、今後の方策としてどのような事が考えられるのか、検討してみました。

2. これまでの豊かな暮らし

- 1) 婦人部の会
- 2) 子育ての協力
- 3) 共同の大掃除
- 4) イベント [納涼会、忘年会、スキーバス、ほか]

3. 現状の課題

- 1) 高齢化が進んできていて、単身になった方も増えている。
- 2) エレベーターが設置できず、バリアフリーにならない。
- 3) 第2世代が別の場所に独立し住居を構えて、戻っては来ない。



居住人数が1/3に減ってきている

4. 解決策として

- 1) 管理組合を法人化して、空き住戸を買い取り、活用する
- 2) 区分所有権から債権化、利用権に
- 3) 比較的世代交代ができていいる住戸もあるクラフトの様子を聞いてみる
- 4) 不動産屋に十方舎の良さをアピールして良好な入居者を迎える準備をしておく
- 5) 象のコーポ同士の連携 →象のネットワーク(象たより)
- 6) 人を探す必要があるならば、コープ協のネットワーク(コープ協HP)
- 7) ユーコートの順番待ちが出る状況。2世を優先に順位付け。
- 8) 1人になった方がシェアハウスとして同居し、空き住戸に子育て世代を入れる

5. 具体的な第1歩

みんな、どうしたいか？

○1985年 竣工時

父	10人	35歳～44歳
母	10人	30歳～43歳
子ども	22人	0歳～14歳
祖母	1人	75歳
計	42人	



○2020年 築35年時

父	3人	71歳～76歳
母	9人	65歳～78歳
子ども	1人	(継続同居)
※転居した空室に 別の子世帯が入居		
計	15人	

